

米原市子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと提供体制
の平成 30 年度実施状況

事業の評価 A (順調) B (概ね順調) C (やや遅れている) D (遅れている)

1 幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制

計画策定時点（平成 26 年度）に供給が足りていなかった 3 号認定の子どもに対しては、既存の公立幼稚園と公立保育所を幼保連携型認定こども園に移行させることや、公立・私立保育所ともに乳児の定員をできる限り増加させることなどによって、提供体制を確保していくことを想定していました。これにより、平成 31 年度（令和元年度）には 1 号認定の子どもから 3 号認定の子どもまでの全ての量の見込みに対応できる供給量を確保できる見通しでした。

市内保育所・幼稚園・認定こども園設置数の推移

園数	認定こども園	幼稚園	保育所	計
H27	3	2	7	12
H28	4	2	6	12
H29	4	2	6	12
H30	5	1	5	11

		1号認定	2号認定		3号認定		計
		3～5歳	3～5歳		0歳	1～2歳	
		教育のみ	幼希望	その他	保育必要		
H30 目標	①量の見込み（必要利用定員総数）	297		722	32	340	1,391
	確保の内容	385		722	82	340	1,529
H30 実績	②利用実績	299		736	27	359	1,421
	増減（②－①）	2		14	△5	19	30
R1 目標	量の見込み（必要利用定員総数）	258		723	35	357	1,373
	確保の内容	395		742	85	357	1,579

評価	B	1号認定子どもについては、量の見込みと比較すると横ばいになっています。一方、2号認定および3号認定子どもについては、量の見込みよりも利用実績が増加しましたが、市内各園の利用定員の弾力運用、施設整備（平成 30 年 4 月のまいばら認定こども園の開園、米原保育園の建替）等により、4月1日時点での待機児童の発生が抑えられました。
----	---	---

今後の事業展開	今後も2号認定および3号認定子どもの利用者数増加が見込まれます。待機児童を生じさせないために、引き続き市内各園の利用定員の弾力運用を図るとともに、保育現場の労働環境の改善等に努め、保育人材を確保していきます。
---------	--

2 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと提供体制

(1) 利用者支援に関する事業

[事業の概要]

子どもまたはその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業などの情報提供および必要に応じた相談・助言などを行うとともに、関係機関との連絡調整などを行う事業です。

H30 目標	量の見込み	か所	2
	確保方策	か所	2
H30 実績	開設数	か所	2
R1 目標	量の見込み	か所	2
	確保方策	か所	2

評価	A	平成 29 年度から米原げんきステーション内に子育て世代包括支援センターを開設しております。保育士が常駐する基本型および保健師が常駐する母子保健型で開設しており、月 2 回程度、市内 4 か所にある地域子育て支援センターを巡回し、また、月 1 回関係機関と情報共有会議を開催するなど、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を実施しています。
----	---	---

今後の事業展開	妊産婦・乳幼児等の状況を継続的・包括的に把握し、妊産婦や保護者の相談に対応するとともに、必要な支援の調整や関係機関との連携などにより、妊産婦や乳幼児等に対して切れ目のない支援を提供して、育児不安や虐待の予防に努めます。
---------	---

(2) 地域子育て支援拠点事業

[事業の概要]

乳幼児およびその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言、その他の援助を行う事業です。

H30 目標	量の見込み (ニーズ量)	人日	14,000
	確保方策	か所	4
H30 実績	利用者数	人日	11,278
	開設数	か所	4
R1 目標	量の見込み (ニーズ量)	人日	14,000
	確保方策	か所	4

評価	B	<p>山東、伊吹、米原、近江の 4 地域において、長年に渡り事業に取り組んできたことで地域子育て支援センターが定着してきたものと考えられます。また、核家族化により利用者の方は、つながりや居場所を求めてリピーター利用や 4 センター全てに顔を出される方もあって多くの利用がありました。しかし、少子化による乳幼児数の減少や就園率の増加により、未就園児数が減少しているため、利用者数が伸び悩みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域子育て支援センター寺子屋 (山東地域) * 地域子育て支援センターはなばたけ (伊吹地域) * 地域子育て支援センターあゆっこ (米原地域) * 地域子育て支援センターふたばっこ (近江地域)
----	---	---

今後の事業展開	引き続き、4 センター体制による子育て支援の充実を図りながら、子育て世代包括支援センターとの連携を図り、利用者へのきめ細やかな子育て支援を行なっていきます。
---------	--

(3) 妊婦健康診査

[事業の概要]

妊婦の健康の保持および増進を図るため、妊婦に対する健康診査として、①健康状態の把握、②検査計測、③保健指導を実施するとともに、妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する事業です。

妊娠中のお母さんと赤ちゃんの健康の保持および増進を図るため、妊娠週数に応じて国が

定める標準的な妊婦健康診査の費用を助成する事業です。

H30 目標	0歳児 人口推計	人	290
	量の見込	件	4,060
	1人当たりの健診回数	回	14
H30 実績	0歳児 人口	人	255
	延健診回数	件	3,091
	1人当たりの健診回数	回	8
R1 目標	0歳児 人口推計	人	285
	量の見込	件	3,990
	1人当たりの健診回数	回	14

評価	A	母子健康手帳交付時の健康教育で、妊娠期での健康管理の重要性の意識付けを図り、定期受診を促しました。また支援が必要なケースについては、医療機関と連携し、主治医の指示に基づいた保健指導や栄養指導を実施しました。
----	---	---

今後の事業展開	妊婦自身が健康管理を実践できるよう各個人に合わせた健康教育や相談業務を行います。また必要に応じ関係機関と連携した支援を行います。
---------	--

(4) 乳児家庭全戸訪問事業

[事業の概要]

生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境などの把握を行う事業です。

H30 目標	0歳児 人口推計	人	290
	量の見込	件	290
	訪問率	%	100
H30 実績	0歳児 人口	人	263
	訪問件数	件	249
	訪問率	%	94.7
R1 目標	0歳児 人口推計	人	285
	量の見込	件	285
	訪問率	%	100

評価	A	育児不安の高い時期に適切に支援を行い、今後の乳児の成長や育児について保護者とともに確認することで、育児不安の軽減を図ることができました。
----	---	--

今後の事業展開	訪問率100%を目指します。訪問が難しい家庭は、関係機関との連携により状況の把握に努めます。
---------	--

(5) 養育支援訪問事業等

[事業の概要]

養育支援が特に必要な家庭に対して居宅を訪問し、養育に関する指導・助言などを行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する事業です。

H30 目標	量の見込み（訪問世帯数）	件	30
	確保方策	件	30
H30 実績	訪問世帯数	件	15
	延訪問回数	回	59
R1 目標	量の見込み（訪問世帯数）	件	30
	確保方策	件	30

評価	B	平成 30 年度は 15 世帯、延べ 59 回の養育支援訪問を行いました。
----	---	---------------------------------------

今後の事業展開	養育支援が特に必要な家庭に対して居宅を訪問し、養育に関する指導・助言などを行います。
---------	--

(6) 子育て短期支援事業

[事業の概要]

保護者の疾病などの理由により、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設などに入所させ、必要な保護を行う事業です。

具体的な事業としては、短期入所生活援助事業（ショートステイ事業）および夜間養護等事業（トワイライト事業）があります。

H30 目標	量の見込み	件	0
	確保方策	件	0
R1 目標	量の見込み	件	0
	確保方策	件	0

[提供体制確保の方向性]

アンケート調査でも直接の利用希望はなく、計画としては事業提供の予定はありませんが、今後ニーズが増大してきた場合には、近隣市町とも連携しながら提供体制を確保するよう検討していきます。

(7) 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）

[事業の概要]

乳幼児や小学生などの児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かりなど育児の援助を受けることを希望する者と、当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業です。

H30 目標	量の見込み	人日	240
	確保方策	人日	240
H30 実績	援助回数	人日	304
	会員数	人	164
R1 目標	量の見込み	人日	240
	確保方策	人日	240

評価	B	平成 27 年度から事業を開始し、広報等で制度の周知を図るとともに、各種集会などにおいて会員登録の推進に努め、会員数の登録は 164 人（利用会員 78 人、サポート会員 73 人、両方会員 13 人）で、援助活動は 304 回が実施されました。会員数は少しずつ増えていますが、利用会員の多い地域とサポート会員の多い地域が異なり、また、定期的な利用には利用会員 1 人当たり複数のサポート会員が必要となるため、サポート会員の増加が課題です。
----	---	--

今後の事業展開	平成 30 年度からひとり親家庭の利用に対する助成を開始しています。引き続き、ひとり親家庭への助成を含めた制度の周知および会員の募集に努め、サポーター養成講座の開催等によりサポート体制の充実に努めます。
---------	---

(8) 一時預かり事業

[事業の概要]

家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間に

保育所、幼稚園、認定こども園などで一時的に預かり、必要な保護を行う事業です。

○幼稚園における一時預かり

H30 目標	量の見込み	1号認定による利用	人日	400
		2号認定による利用	人日	—
	確保方策		人日	350
			か所	5
H30 実績	1号認定による利用		人日	950
	2号認定による利用		人日	—
	実施か所		か所	5
R1 目標	量の見込み	1号認定による利用	人日	380
		2号認定による利用	人日	—
	確保方策		人日	400
			か所	5

○幼稚園以外における一時預かり

H30 目標	量の見込み（一時保育、ファミリー・サポート・センター）		人日	1,140
	確保方策	一時保育	人日	850
		ファミリー・サポート・センター	人日	200
H30 実績	一時保育		人日	794
	ファミリー・サポート・センター		人日	0
R1 目標	量の見込み（一時保育、ファミリー・サポート・センター）		人日	1,110
	確保方策	一時保育	人日	900
		ファミリー・サポート・センター	人日	250

評価	B	<p>公立認定こども園では平成30年度の夏季休業期間から、新たに幼稚園型の一時的預かり事業を開始し、保護者の就労により保育が必要な子どもの受け皿を確保しました。</p> <p>しかし、未就園児を対象とする一般型の一時的預かり事業では、保育士の配置が整わなかったために、ニーズの一部を受入れできなかった事例もありました。</p>
----	---	---

今後の事業展開	保育士を確保し、受入れ態勢を整えられるように検討していく必要があります。
---------	--------------------------------------

(9) 時間外（延長）保育事業

[事業の概要]

保育認定を受けた子どもについて、通常の利用時間以外において、認定こども園、保育所などで保育を実施する事業です。

H30 目標	量の見込み	人	335
	確保方策	人	300
		か所	9
H30 実績	利用人数	人	184
	実施か所数	か所	9
R1 目標	量の見込み	人	327
	確保方策	人	350
		か所	10

評価	B	<p>保育標準時間認定の子どもを対象とした延長保育事業について、公立園での事業展開を検証するために、前年度から米原中保育園1園で行ってきたモデル事業を拡充し、平成30年度は、いぶき認定、かなん認定、まいばら認定の3園で実施しました（民間園では従来から6園で実施）。</p> <p>モデル実施の検証を踏まえ、平成31年度（令和元年度）からは、公立認定こども園全園（4園）の保護者のニーズを踏まえ実施する計画を立てました。</p>
----	---	---

今後の事業展開	より多くの家庭がより気軽に利用できるよう検討します。
---------	----------------------------

(10) 病児・病後児保育事業

[事業の概要]

病児・病後児保育事業は、医療機関や保育所などに付設された専用スペースなどにおいて、看護師などが一時的に保育などを実施する事業です。

H30 目標	量の見込み		人日	2,364
	確保方策	病児・病後児 対応型	人日	500
			か所	1
	確保方策	体調不良児 対応型	人日	1,000
か所			4	
H30 実績	利用人数	病児・病後児	人日	291
	実施か所数	対応型	か所	1
	利用人数	体調不良児	人日	1,183
	実施か所数	対応型	か所	5
R1 目標	量の見込み		人日	2,306
	確保方策	病児・病後児 対応型	人日	500
			か所	1
	確保方策	体調不良児 対応型	人日	1,000
か所			4	

評価	B	<p>各園の入園説明会等の機会を利用し、病児・病後児保育事業の周知に努めましたが、ニーズ量(H30 2,364 人日)に対して、登録者数(H30 244 人)が少ない状況にあることから、周知の仕方について見直す必要があります。</p> <p>一方で、平成29年度から新たに体調不良児対応型の病児保育事業を始め、平成30年度は公立4園、私立1園に広げました。これは、保育園で急に子どもが体調を崩した場合に、保護者がお迎えに来るまでの間、配置された看護師が対応するものであり、急にお迎えに行けない利用者にとって、安心して利用できる環境づくりに貢献できました。</p>
----	---	---

今後の事業展開	<p>病児・病後児保育事業を必要とする方が登録できるよう周知について抜本的に見直しを図ります。</p> <p>体調不良児対応型については、引き続き公立認定こども園全園で実施していきます。また、私立園に対しても、ニーズを確認し、希望があった場合は、補助事業を通じた支援を行っていきます。</p>
---------	--

(11) 放課後児童健全育成事業

[事業の概要]

保護者が労働などにより昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に児童館や小学校の余裕教室などを利用して適切な遊びおよび生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業です。

H30 推計	低学年（6～8歳）人口推計		人	1,040
	高学年（9～11歳）人口推計		人	1,025
H30 目標	量の見込み （ニーズ量）	合計	人	871
		低学年	人	546
		高学年	人	325
	確保方策	登録児童数	人	871
施設数		か所	9	
H30 実績	登録児童数	合計	人	823
		低学年	人	529
		高学年	人	294
	実施か所数	か所	10	
R1 目標	量の見込み （ニーズ量）	合計	人	941
		低学年	人	590
		高学年	人	351
	確保方策	登録児童数	人	941
		施設数	か所	9

評価	B	<p>月別の平均利用者数 502 人 最多利用月（7月） 785 人（年間利用 416 人、長期利用 369 人） 利用児童の多い 5 クラブにおいて支援単位を 2 つ以上に分け、支援体制の充実を図りました。長期休業中の利用者の増加に対応するため、学校や公民館等の空き施設を利用し利用希望者全員を受け入れました。</p> <p>*平成 30 年度に支援単位を増やしたクラブ まいばらっ子クラブ 2 支援単位⇒3 支援単位 いぶきっ子クラブ 1 支援単位⇒2 支援単位</p> <p>*平成 29 年度に引き続き②支援単位としたクラブ げんきッズ坂田・げんきッズ息長・大原児童クラブ</p>
----	---	---

今後の事業展開	<p>利用希望者の増加に伴い、施設の改修など定員数の拡大を進め、受皿の確保に努めていきます。特に大原児童クラブでは利用希望者の増加に伴い、現在の施設では受入れが困難なため増築に向けて準備を進めます。</p>
---------	---

(12) 実費徴収に係る補足給付事業

[事業の概要]

全ての子どもの健やかな成長を支援するために、支給認定保護者のうち、低所得で生計が困難である者の子どもが、特定教育・保育等の提供を受けた場合において、当該支給認定保護者が支払うべき実費徴収額の一部に対して給付費を給付する事業です。

H30 目標	量の見込み	件	1
	確保方策	件	1
H30 実績	給付数	件	0
R1 目標	量の見込み	件	1
	確保方策	件	1

評価	—	<p>平成 28 年度から実施要綱を作成し事業に取り組んでいますが、平成 30 年度は対象となる世帯の方がいなかったため、事業実施はしていません。</p>
----	---	---

今後の事業展開	<p>所属となる世帯の方があった場合は、制度利用の案内をしています。</p>
---------	--

